

●受難節第一主日 泉のほとり

今月の詩編「第一三〇編」

イスラエルよ、主よ待ち望め。

慈しみは主のもとに

豊かな贖いも主のもとに。

主は、イスラエルを

すべての罪から贖ってください。



空っぽになった墓

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちにマグダラのマリアは墓へ向かいました。すると、大きな石が取りのけられているのを見て、ペテロとヨハネのもとへ走り、「主が墓から取り去られました」と告げました。

ペテロとヨハネも急いで墓へ向かい、ヨハネが先に到着しました。彼は身をかがめて中をのぞき、亜麻布が置かれているのを見ましたが、中へは入りませんでした。続いて到着したペテロは墓に入り、主の頭を包んでいた覆いが亜麻布と離れた場所に丸めて置かれているのを確認しました。この詳細な記述は、ヨハネ自身の「目撃証言」として強く伝わるものです。

しかし、この時、ペテロもヨハネもまだ主の復活を理解していませんでした。「空っぽ」の墓を見ても、彼らは復活ではなく「取り去られた」と考えていたのです。

福音は「復活」を宣べ伝え、「死」を超える力と新たな世界を見るようにと語りかけています。ヨハネ福音書は、復活の事実に気づかないマリア、ヨハネ、ペテロを通して、「死」を超える力を見ることのない世界の異質さを示しています。

マリアは再び墓に戻り、空っぽの墓の前で泣いていました。彼女が墓の中をのぞくと、二人の天使が現れ、「女よ、なぜ泣いているのか」と問いかけました。マリアは「私の主が取り去られました。どこに置かれたのかわかりません」と答えました。そのとき、後ろに人の気配を感じ、振り向くと復活された主が立つておられました。しかし、彼女はそれが主だと気づきませんでした。

主はマリアに「女よ」と呼びかけられました。マリアの名前を知らないはずがありません。マリアは主を園丁だと思い、「あなたがあの方を運び去ったのなら、どこに置いたのか教えてください」と頼みました。すると、主は「マリア」と名前を呼ばれました。その声を聞いたマリアは、ヘブライ語で「ラボニ（私の先生）」と言い、主にすがりつきました。

主は「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから」と言われました。それはいつまでもこの地上で「私の主」「私の先生」としてそばにいてほしいと引き止めるようなマリアへの応答だったのではないのでしょうか。

主のマリアへのことばはマリアにだけでなく、すべての弟子たちにも必要な信仰でした。主は「わたしの兄弟たちのところへ行つて、『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、『わたしの神であり、あなたがたの神である方、』とこへわたしは上る』と伝えなさい」と言われました。主は弟子たちとこの世で目に見える形で共にいるのではなく、父のもとへ行かれると言われたのです。お姿を表してくださいましたが、もはや主に会えない悲しみの中にあつた人たちに、この地上で共におられるとの期待を抱かせませんでした。「取り去られた」ことより「復活」の事実のほうがいよいよ、この地上より父のもとに行くことがよい。私たちも目に見えるこの世だけがすべてではなく、天の父のもとにある「復活の命」に生きる者となるよう促されています。

皆さん、この世がすべてではありません。天の父がおられ、父の国があります。主を復活させられた神がおられ、主は今、父のもとにおられます。私たちもこの世に根付いたものとしてではなく、天の父のもとに行く者として、この地上の命ではなく復活の命に生きる者であることを福音の中心に据えて歩いていきたいのです。

主イエスが復活されました。罪のない方が罪人のようになつて人の代わりに死なれました。人の代わりにご自身をささげられたゆえに、神はこの聖なるささげ物となられた方を認め、復活させられました。神の御心は、人が生きることを願い、御子のようにご自分のもとへ来ることです。そのために神は御子に死を通らせ、復活させられました。

私たちも、聖なる主イエスに倣い、この世に根付いて生きようとする古い自分を捨て、惜しまず人のために生きていきたい。そして私たちが抱く復活の希望が確かであること証していきたく思います。

公 告

左記により、三月教会総会を開催いたします。
現任陪餐委員はご出席下さい。

キリスト品川教会
代表役員 黄允湜

記

日時 3月16日(日) 12時30分(目途)から
場所 キリスト品川教会地下ホール及びリモート
議題

- 一 2025年度教会全体課題案に関する件
- 二 2025年度教会行事予定案
- 三 2025年度主日および週間集会予定案
- 四 2025年度教会一般会計予算案
- 五 2025年度地域センター会計予算案
- 六 2025年度グローリア・チャペル
経費管理会計予算案
- 七 2025年度附属幼稚園会計予算案
- 八 2025年度グローリア・チャペル
施設管理会計予算案

※議員資格満18才以上の現任陪餐委員。

(陪席)義務教育終了後満18才未満の現任陪餐委員
と不在会員、教員でない附属幼稚園教諭は、教会総
会に陪席することができません。

(キリスト品川教会教規第3章第14条より)

2025年度

教会役員候補者

キリスト品川教会
代表役員 黄允湜

教会役員会は次の11名を役員候補者として
選考いたしました。

| | |
|--------|-------|
| 上原 利之 | 大友 初枝 |
| 角屋 貴良 | 神山 宣紀 |
| 川越 啓子 | 佐山 貴亮 |
| 高知尾 有里 | 三井 栄一 |
| 三原 穂積 | 山下 純一 |
| 山名 隆史 | |

《今日のお知らせ》

- 定例役員会をカナンルームで行います。
- レントのご挨拶とイースター献金袋を配布しました。
この一年、受けた恵みを原稿用紙二枚(八〇〇字)以
内でお書きいただき、ご提出ください。メールでの提
出も受け付けます。
アドレスは「Lent@gloria-chapel.com」です。
- 一四日(金)附属幼稚園の卒園式を礼拝堂で行います。

《ぶどうの会より》

第二・三シオンルームでぶどうの会を行います。

《役員会より》

役員選挙の投票用紙を皆様の状差しに配布しました。
事務所横にある投票箱にお入れください。今回の役員選
挙は郵送での投票も有効になりますが、その際にも投票
用紙原本を用いて投票してください。投票用紙の画像の
メール添付やファックス送信等は無効です。なお、三月
九日(本日)の投票は午後二時までとさせていただきます。
投票締切は三月一六日(日)一二時三〇分です。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇一三〇篇】

都に上る歌。

深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。

主よ、この声を聞き取ってください。

嘆き祈るわたしの声に

耳を傾けてください。

主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら

主よ、誰が耐ええましよう。

しかし、赦しはあなたのもとにあり

人はあなたを畏れ敬うのです。

わたしは主に望みをおき

わたしの魂は望みをおき

御言葉を待ち望みます。

わたしの魂は主を待ち望みます。

見張りが朝を待つにもまして

見張りが朝を待つにもまして。

イスラエルよ、主を待ち望め。

慈しみは主のもとに

豊かな贖いも主のもとに。

〔司・会〕

主は、イスラエルを

すべての罪から贖ってください。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「神さまは心を見られる」

聖書 サムエル記上16章5b〜13節

説教者 吉村和雄名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「万軍の主に頼る」

聖書 サムエル記上17章43〜50節

説教者 宮間彰広 兄

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 137番 293番

説教 「イエス・キリストの証人」

聖書 使徒1章1〜11節

説教者 吉村和雄名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 137番 293番
説教 「真に光輝きを放つものは」
聖書 使徒7章17～28節(新約 P.225)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「バビロンの流れのほとりで」 J.S.バッハ

○讃美歌137番

1. かちうたうたいて 勝利をいわえ
世界のすくいを 十字架の上に
成しとげたまひし 主をほめまつれ
2. 木の実をくらいし アダムの罪を
にないてわが主は 苦しみなやみ
木の実をのろいを 除きたまえり
3. すくいのみわざに ほろぼす者の
たくみもあとなく うち破られて
十字架はすくいのもとはなりぬ
4. とうとき十字架は 世にたぐいなき
けだかき恵みの 花咲く木より
すくいのかおりを ゆたかにはなて

アーメン

○聖歌隊による讃美

「とうとし聖体」 W.A.モーツァルト作曲
とうとし マリアの
御子 イエスの聖体(みからだ)
世のため 身をさき
十字架につきて
流るる 血潮に
罪をば 洗いて
死をもて
救いと 常世(とこよ)の命を
われらに 給いぬ

○讃美歌293番

1. 知恵とちからの もとなる神よ
にぶくかよわき このしもべにも
かみのちからと ちえとを賜え
2. 地には住めども 神の子なれば
この世のことに 愚かなりとも
父のことには さとからまほし
3. なやめるときも よろこぶ時も
ひとしく神の めぐみを思い
みいつくしみを いかでか忘れん
4. したしき友は 離れさるとも
うからやからは よし疎むとも
まことの父の 愛ははなれじ

アーメン

聖餐曲「救い主よ、十字架の愛よ」 D.ウット

後奏曲「協奏曲口短調より」(アレグロ) J.G.ヴァルター

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。